

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2022年(令和4年)

12月6日 火曜日

文化16面

吉増剛造さん

映画「眩暈 VERTIGO」完成

井上春生監督が追った
2人の交流の軌跡

米の「難民」詩人追悼の旅

現代詩の最前線を走り続ける詩人の吉増剛造さん(83)が、交流のあったアメリカの詩人で映像作家ジョナス・メカス(1922～2019年)を追悼する旅を撮った、井上春生監督の映画「眩暈 VERTIGO」が完成した＝写真＝。

2020年1月、メカスの一周忌にニューヨークを訪れた吉増さんを6日間にわたって撮影。メカスの家やゆかりの場所を巡り、詩の朗読やメカスの思い出の映像などを織り交ぜながら、常に詩を書き続ける吉増さんを追った。

井上監督は「故郷リトアニアを追われた後、



『難民』として終生過ごしたメカスは、異端の詩人、吉増さんに重なる。2人の交流の軌跡を、解釈を交えず距離感をもって捉えた」と言う。

詩の偉大な先達、イエーツやツェランにも話が及び、様々なイメージが走馬灯のように現れては消える。

メカスの家を出た後、文字通りの「めまい」に襲われた詩人の姿は、響き合う2人のエネルギーの強さを見るかのような。井上監督が吉増さんを撮った前作「幻を見るひと」にあったプライベートな視点は、より開かれたパブリックなものに変わり、20世紀の詩の歴史を俯瞰する。

吉増さんは「日常の断片に現れる一瞬の光をていねいに磨き上げ、創造の原点となる初々しさを捉えてくれた」と話す。

13日から25日まで、恵比寿の東京都写真美術館で公開された後、京都、神戸など各地を巡回。詳しくは映画の公式ウェブサイト (<https://www.vertigo-web.com/>)に。(文化部 松本良一)